

麓山の杜 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

春の装い

モデル庭のリ・ガーデン！



ガーデンポイント

【水やり】晩秋から、暖冬の影響で、植物によっては早く活動している物もあります。雨や雪が無い時には、乾燥しやすいのでこの時期でも水やりは必要です。冬でも植物は水を必要としますので、暖かい日の午前中にあげるようにします。その日の夕方までに乾いているようにしておいて、凍結は防ぎましょう。植え替えた場合や鉢植えは、特に水やりが大切です。乾燥防止に腐葉土などでマルチング（地面に敷いておく）をするといいですね。

【肥料】多くの樹種は、まだこの時期は必要ありません。寒肥は来月まで待ちましょう。

【病害虫防除】マツ類につくマツカレハ（マツケムシ）は、樹皮や混み合っている枝や葉に隠れて越冬しています。アブラムシ、カイガラムシは、この季節でも活動しています。幹などについている時は、ブラシなどでこすり取り、その後に殺虫剤を散布します。特に松についているアブラムシは、枝にびっしりとかたまっています。カイガラムシのなかでもロウムシ類は、この時期は良く見つけ出す事ができます。冬季に散布する殺虫剤のマシン油乳剤は、害虫を油の膜で被い退治します。カイガラムシやアブラムシに効果があります。石灰硫黄合剤もこの時期に使用できます。こちらは病害虫に効果があります。ただし、アルカリ性の薬剤の為に金属などが痛む害

お知らせ

記念樹の樹木交付とみどり講習会は
これからの季節、植栽に適さないこと
から、実施いたしておりません。

次回の交付は、
平成28年3月6日（日）です。



動き始めている植物もあります

があります。また、皮膚などに付着すると炎症をおこします。以前は多く使用されていましたが、そのような害が起きやすく、散布後に植物が白くなり美観を損ねる、硫黄の臭いが残るなどの理由で現在は少なくなりました。しかし、今でも果樹農家では使用されている農薬です。どのような農薬でも使用する時には注意が必要です。その農薬が使用できる植物は、事前に登録されていますから、いくら効果があるといっても登録されていない植物には使用できません。

【剪定】寒さに弱い常緑広葉樹は、3月末までは剪定を控えた方が無難です。マツ類は、前年に伸びた枝は途中で切らないようにします。古葉を落して枝を透かす時期としては適期です。ヤニの出が少ないので、樹勢を弱める事がなく綺麗に仕上げる事ができます。雪による枝折れも防げ、赤くなった古葉を取っただけでもさっぱりします。ヒバなどの針葉樹は、3月末頃からの剪定がむいています。落葉樹は、3月中頃までが適期になります。太い枝を切るなどの強めな剪定も可能です。ただし、切り口は癒合剤を塗って保護します。カエデ類はすでに水を上げていますので遅すぎます。切ってしまうと切り口から樹液が流れ出てしまい、樹勢が弱ってしまいます。花木は、すでに花芽がありますので注意をして剪定をします。切り過ぎると花が少なくなってしまう。植物はその種類によって、綺麗

な樹形がきまっていますので、さっぱりしたいというだけで剪定をしてしまうと観賞価値がなくなってしまう。また、自然樹形が良いからと構わないのでは、やはり観賞価値がなくなってしまう。庭の植物は、人の手を加える事によって大きさを制御し、樹形を綺麗にしてこそ価値があります。庭は、自然のようであっても人工的に作られたものなので、水や肥料をあげたり剪定もしたり、また薬剤散布をしたりして、維持管理が必要となります。

【植え替え】 剪定と同じように植え替えも適期があります。一部（カエデ類、ボタンなど）を除いた落葉樹は適期です。ほとんどの場合は枯れたりしません。針葉樹もこれから4月初めまでは適期となります。常緑広葉樹はまだ早すぎます。3月中頃まで待ちます。ただし植え替えをする時には根と土を崩さないようにする事が最低条件です。そして植え込む土をその植物にあった土に改良して、植え込んだ後は水やりを定期的に行います。



【肥料とは？】

チッ素、リン酸、カリが肥料の三要素といわれています。チッ素は葉肥、リン酸は実肥・花肥、カリは根肥といわれています。その他にも植物が育っていくには微量元素を含む肥料が必要になります。量が少なくてもダメですが過剰でも害が出てしまいます。庭の植物にはこれからの時期にあげる寒肥がその役目を果たします。その場合の肥料としては骨粉を混ぜた油粕が適しています。緩効性有機質肥料は肥料焼けをおこしにくく土壌も傷めません。郡山市近郊で多くの庭に使われている山砂には醗酵済み油粕がむいています。



【街で見かけた植物】

紅梅（コウバイ） バラ科アズノ属の落葉小高木 中国原産

暖冬の為に昨年暮れから露地で咲いているウメを見かけます。ただ品種によって咲く時期に違いがあります。この時期に咲いているのはカンコウバイです。花ウメで花を観賞するための品種です。以前の日本の花見はサクラではなくウメだったといわれています。この季節に咲いても香りがあり初春を感じさせてくれる植物です。



** みどりのつばやき **

年末年始は、雪も降らない穏やかな日々でした。ミニ門松の梅の花の蕾も開きはじめ、花が咲いているところもありました。道のあるいていると、落葉樹などの木々の中に、色鮮やかなサザンカや椿の花が綺麗に咲いています。暖冬のせい、庭のハボタンやパンジー、ビオラなども霜やけもせずに綺麗に咲いています。おなじみの冬の風景である遠くの山々の頂の積雪が、今年はちょっと少ないのが残念です。

